

室蘭工業大学の強みの発信と大学院教育の充実

国立大学法人室蘭工業大学 学長 空閑 良壽(くが よしかず)氏



【略歴】

1955 生。工学博士。東京工業大学大学院修士課程修了後、理化学研究所、米国テキサス大学化学工学科博士研究員兼任を経て、室蘭工業大学助教授、2001 年に同大教授。その後、副学長、理事・副学長を経て、2015 年 4 月に国立大学法人室蘭工業大学長に就任。

今年 4 月室蘭工業大学には嬉しいニュースがあり、一般入試(前期・後期合算)倍率が現存する 20 年間のデータでダントツの最高となった。道内志願者数は前年を僅かに下回ったが、道外志願者数が大きく伸び、入学者も道外出身が 45%強とこちらも 20 年間で最高であった。入学女子学生数も 100 名と過去最高である。何がこのような結果を生んだのだろうか？

本学では広報・情報発信に、最近では YouTube 等の動画や SNS 媒体を利用し、学生諸君が主役になった発信に努め、これが功を奏してきた。それにもまして、発信するネタが増えてきたことが大きい。本学では、北海道の課題解決は日本のそして世界の課題解決につながると考え、「社会との共創」を key word として大きく掲げ、大学改革に取り組んでいる。私は本学が国立の工業大学として北海道の地で存在感を示すためには、教育力の裏付けとなる確かな研究力が必要だと確信し、確かな研究力をベースとした教育力を本学の強み・特徴とすべく大学運営に携わっている。

大学ランキングの情報も積極的に発信している。朝日新聞出版社の「[AERA ムック]大学ランキング 2024」によると、コンピュータ科学分野の「分野別論文引用度指数(2017~2021)」で、本学は日本第2位となり、6 年連続で第1位、2位と大変高い評価である。さらに、数学分野の「論文引用度指数」では、今回初めて日本第 1 位となっている！本学の論文の質が非常に高く、他研究者へのインパクトが高いことを示している。その他、主に研究力の観点から THE の世界大学ランキングでは 5 年連続で、今年の 6 月には SDGs の観点からの THE インパクトランキングにも初めて、もう一つの世界の代表的な QS アジア大学ランキング 2023 においても 2 年連続で、ランクインしている。また、インターステラテクノロジズ社との共同研究をはじめとしてロケットエンジン関連の開発や小型人工衛星

「ひろがり」の宇宙での展開実験、白老実験場での様々な民間企業や大学との共同研究を通じたロケットや航空宇宙機エンジンの燃焼実験、300m の新幹線軌道上でロケット台車を走行させるハイパー G 環境下での航空宇宙機器実証実験など、ハードウェアを活用した総合的な MONO づくりと直結する航空宇宙機関連の教育・研究を実施し、全国の志願者に響く、研究の強みを発信している。上記はほんの一例であり、好材料が増えてきたことと発信方法の工夫が好結果の要因であろう。

このような研究力の強みは本学の大学院教育の充実に直結している。本学では来年 4 月に大学院博士前期課程に新たに「情報」×「専門」=未来への価値づくり、をコンセプトとした「共創情報学コース」を新設し、本学での大学院進学率 50%超えを目標としている。自らの専門分野で AI や情報技術を使いこなし、応用できる高度理工系人材を育成するには 6 年間の一貫した教育が必要と考えているからである。

ぜひ、本学から育つ高度理工系の若者が活躍するフィールドが北海道の地で拡がり、北海道における MONO づくり、価値づくりがより発展していくことを心より期待している。

